

# 長崎北病院 伝言板 11月号

令和6年11月1日発行

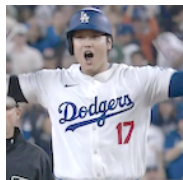
11月。朝はひんやりですが、日中の日差しはまだ強力。11月というのに台風もおいでになりました。1ヶ月遅れの感じです。でも、インフルエンザは季節通り増えています。コロナはまだ減ったままですが年末は毎年恒例、増えるでしょう(>\_<)

気温の変化にしっかり対応、うがい、マスク、そしてワクチン。☆インフルエンザワクチンは予約なしで施行中。☆コロナワクチンは受付で予約してください。



## 「カモン!(Come on!)」

涼しくなるにつれていろいろな競技がクライマックスを迎えています。勝ち残った、選抜されたチームが覇を争う。もちろん、実力は伯仲。小さな幸運、僅かの不運やミスが勝敗を分ける。大リーグ ワールドシリーズはLAドジャース優勝!! 下馬評はヤンキースの方がやや高かったようですが 見事4勝1敗で制しました。ダルビッシュがいるパドレスとのナショナル・リーグ地区シリーズ、メッツとのナ・リーグ優勝決定シリーズ、そして最後のワールドシリーズ。どちらに転んでもおかしくない試合を制して頂点へ。大谷選手が注目されていましたが、ワールドシリーズ5試合で19打数2安打の打率1割5厘。ホームランと打点、盗塁もありませんでした。ポストシーズン全体でも数字的にはあまり目立ちませんでしたが存在感は大きかった。印象的な場面でのヒットに加えて派手なジェスチャー、大きな声で鼓舞する姿勢。手を振り上げながら「カモン!(Come on!)」と叫ぶ姿が印象的です。当然 味方は乗っていけます。Come onは直訳すると「来い」でしょうが、この場面は「頑張れ!」です。



「レッツゴー(Let's go)」に近いと思います。バットは湿っていても大谷選手の発する「行こう、進もう、頑張ろう、勝つぞ」の雰囲気やオーラにチームは乗って行ったと思います。ヤンキースはその面では飲まれていた感じでした。



一方日本シリーズ。ソフトバンクが実力的に優勢との下馬評でしたが、終わってみれば DeNA が4勝2敗で26年ぶりの優勝。シーズン3位からの下克上での日本一!! この2チームも 淡々と大人しいソフトバンク、イケイケの DeNA の構図。浜の番長こと三浦大輔監督「してやったり」です!

寒くなると駅伝シーズンも開幕。駅伝となると最近一番目立っているのはフレッシュグリーンの青山学院。優勝回数も多いが、常にトップ争いをしている。一時期は頂点を極めたがその後低迷という大学も多い。学生が入れ替わる中で、ずっと頂点に立ち続けることは極めて難しい。それを引っ張るのが原晋監督。テレビなどでよく見かけます。出過ぎ、目立ち過ぎという人もいるかもしれないが、結果を出し続ける。選手を育て、伸ばす指導法、ノウハウ。加えて自信、やる気、自立などメンタルも強くする。全体の雰囲気作りにも長けているのでしょう。



スポーツでも仕事でも実力があることが基本。自分の力、チームの総力が伴わずに、ただ「カモン!」と叫んでも誰も動かず、ただの「アホ」と言われます。頑張っただけはついてきた、実力はある。それに加えてさらに前を向く意欲、高い目標を目指す意識。単に仕事としてではなくみんなで勝ちたい、前に行きたいという雰囲気。それが優勝や良い成績を出し続けるチームの総合力。まずはプロとして自分の力をつけるのが最初です。実力、資格、成績。しかし、自分だけでは個人の集合体にすぎない。全体のレベルアップはどうか、自分の周囲、全体を前に向ける目標、雰囲気。チームがさらに強くなるには 動作、声、気配り、雰囲気作り。それら全てが組み合わせられて総合力。Come on!。PS:「さあ飲みに行くぞ!」は最近ではパワハラです(A.S.)

